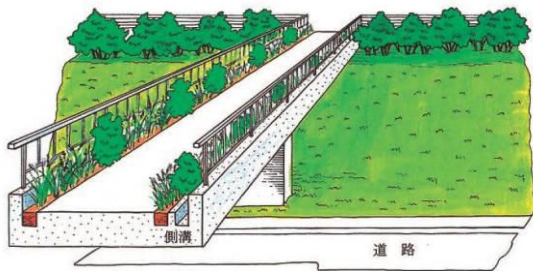
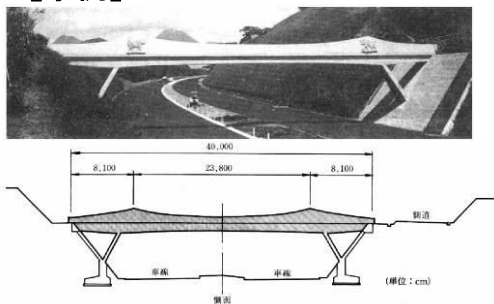


個票 16 横断橋による移動ルートの確保 [道 2(3)①1-2、道 3(2)①1-2]

(2010年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮 遺伝子の多様性への配慮	配慮 項目	野生生物の移動を阻害する要素の 排除
配慮事項	野生動物の移動ルートの確保		
配慮事例	移動ルート分断時のトンネル、横断橋による移動ルートの確保		
内容	<p>●横断橋による移動ルートの確保</p>		
	<p>【解説】 野生動物の生息環境の場を分断する場合などに際しては、切土区間では道路上に通路を確保し、移動路を確保することが生物多様性への配慮につながります。対象とする動物種によって、設置場所、橋の大きさ、わたりやすい構造（覆土など）に配慮することが望まれます。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p>  <p>出典:1</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>① 路面は土壌などを用いた自然の仕上げにするのが望ましい。</p> <p>② 幅員は大きくし、両端には植栽基盤を作り、通行する車両が動物側から見えないようにします。</p> <p>③ 出入り口周辺部には移動用通路を確保し、道路への侵入防止柵を設置します。</p> </div> <p>【事例】</p>  <p>出典:3</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【場所】 大分県 大分自動車道</p> <p>【環境配慮の内容と方法、工法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高崎山のニホンザルの移動経路確保のために、オーバースタック式のサル専用移動路を設置した。 壁高欄にし、底部は客土して草本類が生育するようにした。 橋の両側出入り口部には植栽をし、本線部には格子状の侵入防止柵を設置した。 </div>		
留意点			
参考資料	<p>1 「自然との共生をめざす道づくり - エコロード・ハンドブック -」(財) 道路環境研究所 エコロード検討委員会、大成出版社</p> <p>2 「エコロード 生き物にやさしい道づくり」 亀山章編、ソフトサイエンス社</p> <p>3 「道路環境影響評価の技術手法 2007年改定版」(財) 道路環境研究所</p>		